



皆さんの声に寄り添うことで、 クリエイティブ より創造的で楽しい未来を作れます。



■福祉と公共サービス

おむつ回収無償化
乳幼児のおむつ定期便
高齢者孤立防止対策
アフタースクールプログラムの充実
市内のこども園連携強化
第2子からの保育料無償化
家庭保育への支援
習いごと補助金
高齢者のデジタル対応支援
歯科検診の推進
企業と連携して安心見守り体制
片親家庭の支援
ファミリーシップ制度の導入

デマンド交通の充実
父親育休100%
社会福祉協議会の機能強化
高齢者お出かけ費用を支援
シニア補助金の利便性向上
医療介護連携ネットワーク強化
地域クリニック開業支援
認知症対策の充実
子育て休暇
若者出会いサポート強化
生涯の学びを提供
介護施設支援

■行政サービスの効率化

自治協議会拠点で行政手続き
行かなくて良い市役所
行政業務へのAI技術導入
国が行う先行事業への積極的関与
「社会実験シティ」宣言
支所をテレワークセンターに
サポーター市民向け情報配信強化
広報力強化で市の認知度アップ
ふるさと納税倍増プロジェクト
官民人事交流で民間ノウハウ注入
市役所業務に「カイゼン」導入
あて職整理と抽選式民主制
空き家対策プロセスの見える化
市役所が率先して女性活躍支援
職員研修の充実
多文化共生基本計画

■教育と学習の機会

AI人材育成センター設立
給食費無償化
ALTサポート強化で国際人材育成
子どもの国際交流プログラム
海外大学留学奨学金
プログラミング教育の普及
パーソナライズされた多様な教育
芸術を通じたコミュニケーション教育
IT人材の教育者ネットワーク
アクティブラーニングの推進
ふるさと・日本文化を語れる人材育成

家庭教育への支援
義務教育関連費用の支援
図書館・学校図書室の充実
読み聞かせプロジェクトの推進
幼少期から触れる英語
自然体験プログラムの充実
三ツ塚を子どもプレーパークに
すべての小学校に裏山を
通学費支援

■地域開発と観光促進

花めぐりによる観光開発を強化
登山とアウトドア活動の基盤整備
宿泊施設の整備拡充
近隣市と連携した誘客プログラム
漢方と癒して漢方の里公園を女性の聖地に
春日にあんこ博物館
インバウンド観光のインフラ整備
海外富裕層向け滞在型観光
戦国のまち黒井でにぎわい創出
廃校を泊まれる学校に
丹波市に来たらぜんざいフードパレー構想
県・JR連携で柏原駅周辺を再開発
自転車専用道の整備
柏原駅～成松間に自動運転バス
水分れを意思決定の聖地に
地域おこし協力隊を倍増
国際音楽祭と国際映画祭
やすら樹の再活用策
独自事業で過疎指定を有効活用
旧日赤跡地の活用

■防災・安全対策と環境政策

南海トラフ広域連携・シェルターシティ
広域交通網の整備と災害時の対応力強化
JR加古川線と篠山口駅接続強化
局地災害対策と地域の危機管理計画策定
外国人の災害時対応計画
避難者受入宿泊施設協定
NPO・NGOと災害時連携協定
被災者のための福祉ケア
内水対策アクションプラン策定
有機たい肥とメタンガス発電
バイオマス発電によるエネルギー自給

水素社会への貢献
生物多様性戦略の策定
ドローンを活用した森林管理
森の保険で安心して里山活動
空き家管理団体の支援強化
二地域居住促進で空き家対策
消防団の機構改革・団員確保支援
野焼きを巡る社会的合意

丹波市内を駆け巡り、 あなたの声を政策に!

順次、議会で
提案しています!



こばし あきひこ
小橋昭彦

2023年度は、丹波市内300名を超える方とじっくり
ひざ詰めでお話ししてきました。小橋昭彦はそれらを
政策に反映させ、実現を目指しています。
あなたのご意見をお待ちしています!



表面の答え

ごみ袋の値下げってどうなってるの?

小橋昭彦は、減量と一体となった真の負担軽減を目指しています。議会では起案者となって、昨年3月に「ごみ減量を進めながら市民負担の軽減を求める決議」を賛成多数で採択しました。
単なる「半額化」だと、これまでごみを出す人が負担されていた1億2千万円の半分を、高齢者から赤ちゃんまで含む6万人の市民全員で、1人あたり今よりも千円ずつ負担することになります。これでは暮らしが楽になりません。
これを防ぐには、丹波篠山市に委託している山南地域のごみ処理を丹波市で受け入れ、昨年度で1.2億円だった負担金を無くすことです。そうすれば1人千円負担しなくても値下げの財源になります。これで実現できます。

農業の担い手、どうしよう…

今のままではギリギリです。なぜなら定年延長によって、これまで担い手だった定年後の帰農が期待できなくなるから。農業を雇用型産業に転換し、若者が就農できる戦略が必要です。そのためには、100円の小豆を1000円のぜんざいとして販売する発想や施設園芸農業の推進で付加価値を高め、食産業として育てていくことです。
現在主力を担っていたいる兼業農家さん、家族農業を中心とする場合は、品目別の出荷協力体制が鍵を握ります。農村の維持には欠かせない取り組みです。
小橋昭彦は2021年に国の「みどりの食料システム戦略」をいち早く議会で取り上げました。給食を切り口に循環型農業の発信地に育てるビジョンがあってもいいですね。

私たちの老後、心配しかない…

人生100年時代と言われる。健康長寿が一番。健康のバロメーターといわれる歯科検診の推進のほか、シニアが活躍する教養文化活動を支援。葉草をはじめとするウェルネス産業を振興し、健康なら丹波市とアピールしましょう。
ご存知でしょうか、丹波市は内職者数人口比で全国7位。今風でいう「テレワーク」が多いまちです。家庭にいながら小遣い稼ぎができる強みは、暮らしに自由度と余裕をもたらします。大切にしたいですね。
集落過疎化で頼れる人が少なくなる中、地域任せではなく企業と連携し、見守りネットワークの強化を図る。そこには片親家庭や障がい者も含まれます。小橋昭彦が目指すシニアにやさしいまちは、誰ひとり取り残さない福祉のまちです。

あなたと共に、やさしく楽しい未来へ。

こばし あきひこ
【発行】小橋昭彦後援会

〒669-4265 丹波市春日町中山 1150

本人携帯：080-3869-1771 <https://kobashi.ne.jp/>

